

## 農振農用地の現状の位置づけと事業用地への転用に対する本市の認識は

**問** 東名愛鷹スマートインターチェンジ北側及び長泉沼津インターチェンジ南側の農振農用地の現状の位置づけと事業用地への転用に対する本市の認識は。

**答** **産業振興部長**／本用地は、沼津市農業振興地域整備計画において、都市近郊型農業として、引き続き生産活動による農業振興のための土地利用を継続していく地域として農用地区域に位置づけられている。その一方で、当該地域は市街化区域に近接しており、近年、周辺における広域交通網の整備が進展している地域であるとともに、沼津市企業立地促進

ビジョンにおいて、事業用地の確保を図る地区として位置づけられている。このことから、事業用地の必要性に鑑み、農振農用地の事業用地への転用については、農業振興とのバランスも考慮しながら柔軟に対応していくことが必要であると認識しており、企業からの具体的な事業計画があった際には、地域の活用なども視野に入れ、農用地区域の在り方について検討していく。



▲東名愛鷹スマートインターチェンジ北側の農振農用地

## 戸田地区からのバス通学費等の補助を実施する考えは

**問** 過疎債を活用して、戸田地区からのバス通学費や下宿代等の補助を実施する考えは。

**答** **企画部長**／戸田地区からの通学等に対する補助制度については、沼津市戸田地区過疎地域自立促進計画に事業として掲載がないことから、過疎債を活用しての実施は現状できないものであり、また、過疎債を活用することの適正性や効果、市内他地域との公平性の確保という観点から補助の導入については、十分な議論が必要であると認識している。

**問** 主要地方道沼津土肥線の整備促進に向けた要望活動の実施状況は。

**答** **建設部長**／令和元年度は、沼津市建設事業要望において、県に要望したほか、沼津・土肥間道路整備促進期成同盟会要望においても、沼津市南部地域連合自治会連絡協議会の各連合自治会長と共に、県に対し地元の声を届けるなど、本路線の拡幅改良の促進に向けた要望を実施した。



▲西浦久連周辺の主要地方道沼津土肥線

水口 淳 形式一 括

## 職員の多様性を認める職場づくりを

**問** 本市職員の働き方を、働く人の多様性に合わせて変化させることで、力を最大限に発揮できると考えるが、多様性を認める職場づくりや人事評価に対する本市の考えは。

**答** **企画部長**／職員採用に当たっては、性別や年齢にとらわれない人物本位の視点で採用試験を行っており、現在、身体や精神に障害のある人や民間企業での職務経験を有する人等、多様な職員が勤務している。また、育児休暇取得後の子育て中の職員や介護を要する家族を持つ職員に対しては、各家庭の事情に応じた短時間での勤務制度を導入している。さら

に、人権に関する意識向上や正しい知識を身につけるための研修や啓発を行うなど、多様性に対する職員の理解の深化に努めており、本市職員が家庭と仕事を両立させつつ、自分らしく生き生きと仕事を行うことのできる職場づくりに取り組んでいく。人事評価については、働き方改革が叫ばれる中、ワークライフバランスの向上につながる多様な働き方の整備が求められており、このような社会状況に適応するため、評価の方法を研究し、頑張った職員が報われる人事評価を目指していきたいと考えている。

## 市道 0105 号線の 4 車線化に向けた今後の取組は

**問** 都市計画道路片浜池田線の一部区間である市道〇一〇五号線の四車線化に向けた県との協議状況は。

**答** **建設部長**／市道〇一〇五号線は、東名愛鷹スマートインターチェンジの開通による交通量の増加や、将来予定されている東駿河湾環状道路の（仮称）愛鷹インターチェンジ開通に伴う市街地からの交通量の増加等により、早急な交通の円滑化及び交通安全の確保が必要な路線であると認識している。そのため、広域的な道路整備の観点から、県に対し要望を行っているが、事業化までの回答は得られていない。

**問** 国道一号と市道〇一〇五号線の交差点の渋滞解消に向けた取組は。

**答** **建設部長**／国道一号と市道〇一〇五号線の交差点は、右折待ちの車両の影響により渋滞が発生していることから、交差点北側においては、道路拡幅後、右折車線を二車線整備するほか、交差点南側においては、大川に架かる橋梁を拡幅し、右折車線を整備することで円滑な車両の通行を図っていく。



▲東名愛鷹スマートインターチェンジ周辺の市道 0105 号線

渡部 一二実 形式一 括

尾藤 正弘 形式一 括

小澤 隆 形式一 括